

番茶党

第 36 号



番茶

それは

目立たず、質素であり、素朴な味が引き出されるお茶のことである。

或るものは、ホッとする家庭的な香りを求めるために。

或るものは、干からびてしまった心を潤すために。

或るものは、自我と向き合い己の価値を見いだすために。

番茶

それは

刻々と変わり行く窮屈な現代社会に残された

心のゆとりのことである。

部長の挨拶

こんにちは。番茶党を手にとっていただきありがとうございます。

実は、昨年新聞部員だった71期生が全員引退し、私を含めて4人しか部員がいません。そんな危機の中なんとかここに番茶党の伝統を守ることができほっと安心しているところです。

江川過氏やサボンナ寄稿氏による寄稿のおかげもあり、今年の番茶党は、部員数の減少やコロナ禍で名物企画「こんくい」（こんなん食いましたけど ～困難悔いましたけど～）が開催できぬという事件にも負けず、妙に熱の入った記事が多く、量はなかなかのものと自負しております（今年も部員は入れ替わったものの締切観念の欠如は受け継がれておりますので、質に関しては必ずしも保証するものではございません）。

番茶。取るに足りぬもの。そんなものに心が潤されることもあります。今年も個性派揃いの記事となっております。どうぞお楽しみくださいませ。

しょうもないことを並べ立ててしまったようです。では早速、精鋭の部員たちによる締切をぶちぎっての苦闘の跡をお目に掛けたいと思います。

それとともに、どうぞ皆さん、新聞部への入部もお待ちしております。本当にお願ひします。

東大寺学園新聞部部長 金田夏輝

お品書き

一煎目	プロ野球と文学	坂道冬樹	1
二煎目	地名は残すべきか？	サボナ寄稿	4
三煎目	ギターとリュートの関係	遠本伊祐	6
四煎目	昭和の名棋士たち	小山康風	8
五煎目	野球のすごい記録集	江川過	16
六煎目	「猫」概念の考察 日本のポピュラー音楽を読む	中前洋輔	27

プロ野球と文学

坂道冬樹

はじめに

読者の皆様は今年がなんの年かご存じでしょうか？今年、野球が日本に伝来してから150年の年です。正岡子規の時代から、野球と文学は密接な関係を築いてきました（と私は思います）。そこで、プロ野球と作家の関係に焦点を当てて、勢力図を作ろうと思い立ちました。多少の誤りはご容赦ください。

勢力図

名前（敬称略）	出身地	生年
---------	-----	----

東京ヤクルトスワローズ

井上ひさし	山形県	1934
-------	-----	------

小林信彦	東京都	32
------	-----	----

柴田よしき	東京都	59
-------	-----	----

高橋源一郎	広島県	51
-------	-----	----

西岡光秋	大阪府	34
------	-----	----

村上春樹	京都府	49
------	-----	----

宮脇俊三	埼玉県	26
------	-----	----

阪神タイガース

あさのあつこ	岡山県	54
--------	-----	----

阿刀田高	東京都	35
------	-----	----

小川洋子	岡山県	62
------	-----	----

北村薫	埼玉県	49
-----	-----	----

北杜夫	東京都	27
-----	-----	----

東野圭吾	大阪府	58
------	-----	----

横浜 DeNA ベイスターズ

佐藤多佳子	東京都	62
-------	-----	----

広島東洋カープ

綾辻行人	京都府	60
------	-----	----

小山田浩子	広島県	83
-------	-----	----

重松清	岡山県	63
-----	-----	----

東川篤也	広島県	68
------	-----	----

ざっくりとした球団の歴史

東京ヤクルトスワローズの歴史

1950～64年:	国鉄時代	最高順位は61年の3位
65～68年:	サンケイ時代	最高順位は68年の4位
69年:	アトムズ時代	5位
70年～:	ヤクルト時代	78、92、93、95、97、2001、15、21年に優勝 1978、93、95、97、2001、21年に日本一

阪神タイガースの歴史

1935～39年:	大阪タイガース時代	37年秋、38年春に優勝
40～45年:	阪神軍時代	44年に優勝
45～60年:	大阪タイガース時代	47年に優勝
61年～:	阪神タイガース時代	61、62、64、85年に優勝 85年は日本一 2003、05年に優勝

横浜 DeNA ベイスターズの歴史

1950年～92年:	ホエールズ時代	60年に優勝及び日本一
1993～2010年:	横浜ベイスターズ時代	98年に優勝、日本一
2011年～:	横浜 DeNA ベイスターズ時代	優勝なし

広島東洋カープの歴史

1950～67年:	広島カープ時代	6回の4位が最高順位
1968～:	広島東洋カープ時代	75、79、80、84、86、91、2016～18年に優勝 1979、80、84年に日本一

考察

球団にかなり偏りが出ました。作家だけが感じるシンパシーがあるのかなのか…。

ヤクルトファンは若者時代を東京で過ごした人ばかりです。それでも、巨人ではなくヤクルトに集まるところに、作家らしさがある気がします。阪神ファンはどこにでも、いつの時代もいるということでしょうか。佐藤先生は遠藤投手が横浜ファンになったきっかけと話しています。小川先生も「博士の愛した数式」で江夏投手を物語のキーにしているので、投手が作家の心を惹きつけるということもありそうです。村上先生はヒルトン内野手の二塁打を見て、小説を書くことにしたそうですが…。カーブは子供時代の影響が出ている感じがします。綾辻先生は子供の時から好きという話がありましたし。

ミステリ作家の野球ファンが多いようです。ヤクルトに一人、タイガースとカーブに二人ずつ（柴田先生、北村先生、東野先生、綾辻先生、東川先生）。一見関係なさそうに見えますが、野球もミステリも頭を使う競技ということだと思います。

（やや強引な）まとめ

プロ野球と文学、人々の心を惹きつけてやまない両者が、切っても切れぬ関係であることをご理解いただけたことと思います。勢力図と言う割には、偏りが多かった気もしますが、これも一つの勢力図です。これを機に、好きな球団を決めたり、次に読む本を決めたりしてみたいはいかがでしょうか。

最後まで読んでいただき、ありがとうございました。野球と文学、両者の繁栄を心から願っております。

地名は残すべきか？

サボンナ寄稿

地名は大事だ。二個目の名前のようなものだ。運転免許証でも姓名、生年月日の次に住所が来る。自分の名前が自分でつけられないように住所は自分ではつけられない。選択はできるが。とは言え、名は体を表すように、地名によってどういう場所に住んでいるかは大方頭に思い浮かぶ。例えば、京都に住んでいるなら皮肉がきついのかお上品なのか、大阪に住んでいれば口がきついのか、と固定観念に照らし合わせて推測がつく。このように、地名はイメージ、性格を持つのである。単なる記号、標識ではない。地名に付与されるイメージは多岐にわたるものだ。ひと目で横浜であれば、ああ海辺にあるんだなとわかる。しかしすぐには原義がわからないものもある。例えば、諸説あるが、奈良という地名は山腹の傾斜の緩やかな地形、つまり平（なら）された地から来ている。このような言葉、特に自然地名は文字がある以前、弥生、縄文時代からの言葉が含まれていることがある。まあ何となくわかる。しかし、地名がつけられる過程においてはその名付け親のその土地の環境につながるイメージが地名となるのだから、言葉、感覚、雰囲気がずれていれば、ずっと分かるわけがない。そういうわけで、地名がずれると人は地名からイメージが出しづらくなり、地名は人にイメージの力を及ぼさなくなる。時には、地名を変えてしまうこともある。何ともったいない。本当に地名は変えていいのだろうか？

そもそも地名とはなんだろうか。地名は土地に対してつけられた固有名詞である。しかし実は固有名詞にもかかわらず意味を持つのである。日本の民俗学の創始者であり、日本の地名について本格的に研究を始めた地名学の先駆者でもある柳田國男は著書『地名の研究』において『地名は二人以上の人の間で共同で使用せらるる符号である。』と語っている。つまり内輪同士の命名から地名は始まったと考えられている。二人の間、家族内で通用する地名も当然存在する。生活範囲が狭い時代、ある村の人にとっては林と言えば決まった林を指す。こうして地名が誕生し、林という地名は普通名詞でありながら、固有名詞にもなる。地名発生の始まりはこうした地形の描写である。そして、地名には、地形だけでなく、人間の生活が関係する文化的な要素からも作られる。例えば、城下町には職人町があり、職業にちなんだ地名が多い。大和郡山市中心部は元々城下町で、今でも大工町、魚町、紺屋町、材木町などがある。この地名を作る要素、地形と文化はともに人間を取り巻く環境であり、地名は地名の形成過程、環境のイメージを示す。

地名は私たちにイメージを付与するだけでなく、多分野の学問、歴史、考古学、言語学、民俗学、等々に貢献して来た。その例を挙げてみよう。

考古学にとっても地名は重要だ。ここ奈良市には平城宮跡があるが、あの大極殿は近年再建されたもので、明治ごろまでただの田畑だった。平城京の建造物は遷都する過程で、撤去され跡形も無くなってしまった。しかし、人々は地名として後世に語り継いだ。都跡町などの地名が最たる例だろう。1899年に関野貞氏が、地元民が“大黒の芝”とよぶ草地があるのを知り、「ダイコク」から「大極」を連想した。調査を始めてみると、大極殿の基礎部分や様々な遺跡が発見されたそう。このように地名がヒントとなり、遺跡が発見された。これは地名を残してくれた先人様々だ。

地名は当然歴史、そして地理も語る。みなさんは弥刀をご存知だろうか。近鉄大阪線の普通停車駅の弥刀である。かなりマイナーな駅名、地名だが、これは過去の大阪を語る地名である。弥刀は大阪平野の中部、八尾の方にある。そして海からは10キロ離れている。しかし、弥刀の由来は水戸（みなと）つまり、港だった。そこに海か湖があったことを示す。実際、古墳時代まで大阪平野は河内湾という汽水湖だったそうだ。地名からも地学的な痕跡の証拠を確認できる。

災害についても語ろう、東日本大震災以来、土地の高低や地質についての不安が広がり、地名から土地の安全性を図ろうとする傾向がある。『〇〇の字のつく地名は危ない』と言う風に。確かに地名は土地の特徴と結びつく場合が多いが、安易に文字から判断はできない。～～池なら、池を埋め立てたからなのか、池が見えるからなのか、どちらか分からない。それに当て字もあって余計に分からない。ただ、そういう傾向がある、というだけのことだ。そして、地名と土地の特徴が合致しない可能性もある。故に、字面を見て判断するのは禁物だ。地名を通じて土地に関心が集まるのは嬉しいが、実際、地名は断片的だ、そこで、その各断片を組み合わせるのが、地理であり、地名より確実だ。防災のためにはその土地を地理に頼って判断してもらいたい。

このように、地名が貢献できるのは、先人のおかげで連綿と地名が受け継がれて来たからだ。もはや地名は私たち当代限りのものではない。安易に捨てるのは許されない。

だからと言って地名変えるなど言っているわけではない。伝統保護一点張りであるわけではない。そもそも、地名の移り変わりは古来以来、断続的に行われていて目新しいことではない。最近の出来事だから目に付く。私が常に思っているのは、引用するなら『伝統とは、あらゆる階級のうち最も陽の目を見ぬ階級に、つまり我々が祖先に、投票権を与えることを意味する。死者の民主主義なのだ。単にたまたま今生きて動いているというだけで、今の人間が投票権を独占するなどは傲慢だ。』だ。私たちにも投票権があり、死者＝先人にも投票権がある。生きているのは私たちだから、地名を捨てるか捨てないかの選択肢は私たちにあり、先人の代理人としていくべきだ。そして、地名は私たち当代限りのものではない。未来に残すものだ。さらに、地名が現在とギャップはあるとしても過去を記録した文化遺産だ。それ相応の取り扱いをしてほしい。その上で考えてほしい。地名を変えるべきか否か。慎重に地名のことを考えれば、地名を変えることはそんなに簡単ではないはずだ。しかし、何としても地名を変えたい場合もあるかもしれない。その場合は、地名の重要さを十分に考慮に入れた上での変更であってほしい。地名変更はしても良いができるだけすべきでないというのが私の意見だ。

最後に、地名は、地理はとにかく面白い（ブラタモリがオススメ）。あらゆる場所にそのヒントが隠されている。土を持ってこれは何だと調べるのも一興。地名で言えば、電柱や駅名、バス停名に失われた地名を探すのも一興。実際、本校の土地には現行地名、山陵町ではない地名が過去にあった。その痕跡は残っている。暇つぶし程度に探してみたい。

ギターとリュートの関係

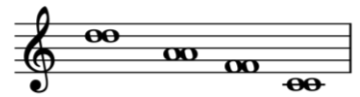
遠本伊祐

楽器学はギターとリュートを同じ系統とは見なさない。ギターはスペイン発祥（実態は定かではない）であるのに対し、リュートはバルバットというアラブの楽器に起源をもつ。だが、奏法や形状が似ているため、両者が無関係だということも考えにくい。ここでは楽器の物理的特徴は一旦忘れて、調弦という観点からギターとリュートの関係性について考える。筆者は楽器学について詳しいわけではないため、多少の間違いは容赦願いたい。

ビウエラについて

ギターと呼ばれる楽器は16世紀初期にスペインで生まれた。当時のギターはルネサンスギターと呼ばれる。ルネサンスギターは4コース・複弦で、D-A-F-Cに調弦されていた。これを二度上に移調すると現代のギターの1弦から4弦の調弦に一致する。ここで重要なことは、この調弦がビウエラの2コースから5コースの調弦とも同じだということだ。

ビウエラという楽器は聞いたことがない人が多いだろう。ビウエラは15世紀から16世紀にかけてスペインで使用された楽器で、ギターと似た瓢箪型のボディに6コースの複弦を持っていた。ビウエラはG-D-A-F-C-Gと、四度、四度、三度、四度、四度で調弦される。形状や調弦、地域が共通しているため、ビウエラがギターと非常に近い関係にあったことは明らかである。ビウエラについての詳しい情報はネット検索で得られるためここでは述べない。これ以降は、ギターの代わりにビウエラで議論を進める。



ルネサンスギターの調弦



ビウエラ

リュートの調弦

4コースの中世リュートはG-D-A-Gに調弦された。3コース・4コース間が二度の特徴的な調弦はリュートの祖先であるバルバットに由来し、バルバットの直系の子孫である現在のウードにも見られる。その後、コースが増えてG-D-A-G-Dとなった。既存の調弦に低音が追加されるという変化は、音楽の発展に伴ってより広い音域が求められるようになったのだと解釈できる。



ビウエラ・ルネサンスリュートの調弦

だが、16世紀初期に入ると調弦が大きく変わる。さらにコースが増えた6コースのルネサンスリュートはG-D-A-F-C-Gに調弦された。6コース目を追加する際に、4コース、5コースが二度下げられている。既存のコースの調弦が変わるのは不自然に見える。だが、お気づきだろうか？ そう、これはビウエラの調弦と一致するのだ。

従来の説

とはいえ、この段階でビウエラとリュートに関係があると決めつけるのは早とちりだ。実は、ビウエラという楽器の背景には宗教的な事情がある。スペインはレコンキスタでイスラム教徒と対立しており、堅実なキリスト教の国家でもあった。そのため、リュートはイスラム教徒の楽器と見なされ、使用されなかった。ビウエラはそのような状況下で独自に発展した楽器で、リュートとは逆にビウエラはイベリア半島以外には伝わらなかった。つまり、ビウエラの影響でリュートの調弦が変わったとは考えにくいのだ。そのため、現在の楽器学ではビウエラとリュートの間に関係性を認めていない。リュートの調弦の変化は音域を広げるためであるというのが定説である。だが、上でも述べたように、これは非常に不自然な変化なのだ。他の楽器の影響があったと考えるべきではないだろうか。

我が新説

ビウエラについてまだ述べていないことがある。ビウエラと呼ばれる楽器は複数あるのだ。これまで触れてきたビウエラは、ビウエラ・デ・マーノ（手のビウエラ）と呼ばれる。他のビウエラに、ビウエラ・デ・アルコ（弓のビウエラ）がある。これはヴィオラ・ダ・ガンバの祖先だ。「ビウエラ」と「ヴィオラ」が同じ言葉であることからわかるように、ビウエラとヴィオラ・ダ・ガンバはフィドルという楽器を共通の祖先にもつ親戚同士だ。このヴィオラ・ダ・ガンバこそが新説の要なのである。ヴィオラ・ダ・ガンバの調弦はサイズによって違うが、いずれもビウエラと同様に四度、四度、三度、四度、四度に調弦される。これはビウエラとヴィオラ・ダ・ガンバが親戚だからだと見て良いだろう。ピレネー山脈を越えられなかったビウエラに対して、ヴィオラ・ダ・ガンバはヨーロッパ全域に広まった。また、ヴィオラ・ダ・ガンバの登場時期は16世紀前後で、リュートの調弦が変わった時期とも一致する。リュートとヴィオラ・ダ・ガンバの間で文化の接触があった可能性は高い。つまり、リュートの調弦の変化はヴィオラ・ダ・ガンバの影響なのだ。そう考えれば、ビウエラとリュートの調弦が同じことにも納得がいく。ビウエラとリュートは直接関係があるわけではないが、ヴィオラ・ダ・ガンバという「橋渡し役」が両者の調弦の一致を生んだのだ。調弦の一致は偶然ではなかった。ギターはビウエラの親戚なので、ギターとリュートも無縁ではないことになる。めでたし、めでたし。

まとめ

いかがだったでしょうか。楽器自体はまったくの別物であっても、調弦のように楽器に付随する思想に関係性が見いだせるということを理解していただけたと思う。楽器学は歴史と深い関わりのある学問だ。この記事が楽器という「もの」に興味をもつきっかけになれば幸いである。

ところで、バロック期にはリュートはF-D-A-F-D-Aとニ短調に調弦されるようになる。不協和音が音楽に取り入れられるようになって調弦の間隔が狭められたのだと言われているが……。

昭和の名棋士たち

小山康風

2022年（令和4年）8月現在、竜王・王位・叡王・王将・棋聖の5冠を保持する藤井聡太が将棋界を席卷しています。また、名人・棋王を保持する渡辺明も当然大きな存在感を発揮していて、その他永瀬拓矢が王座を保持しているという状況です。もちろんA級では斎藤慎太郎八段、豊島将之九段、糸谷哲郎八段、佐藤天彦九段らが活躍しています。

では10年前はどうだったか。さらに昭和ではどうだったか。僕はこの記事で昭和の将棋界への愛を伝えたいのです。

ちなみに10年前の第70期は名人が森内俊之でA級順位戦では高橋道雄九段が最年長、渡辺明竜王（当時も）が最年少。その他は谷川浩司九段も一世代上ですが羽生、郷田、三浦、丸山、久保、佐藤康光、屋敷と羽生世代プラス少しだけ下の年代の人たち、という構造でした。

その10年前、2002年度ですが、第60期（名人は丸山忠久）のA級順位戦の顔ぶれを見てみましょう。谷川、佐藤康光、羽生、森内、青野、森下、先崎、加藤、藤井、三浦。世代的に言えばこの10年後の第70期と比べて青野、加藤がいなくなって代わりに渡辺がいるという状況です。他は世代は全然変わっていませんし谷川、羽生、佐藤康光、森内、丸山、三浦は10年後でも名人またはA級だったわけです（佐藤康光は20年後も）。羽生世代がいかに偉大か、実感いただけるのではないのでしょうか。

そして「加藤」と聞いてピンときた方は素晴らしい。第60期順位戦は加藤一二三九段がA級で指した最後の年です。このとき加藤は62歳。60代でA級棋士というのはものすごいことです。

筆者も存じない昔の土居市太郎も61歳でA級に在籍したようですが降級した最後の順位戦は第3期。ちょっと昔すぎます。

他に60代でA級に在籍した棋士をついでに紹介しましょう。

大山康晴十五世名人（69歳）

加藤一二三九段（62歳）

升田幸三実力制第四代名人（61歳）

花村元司九段（61歳）

塚田正夫名誉十段（60歳）

有吉道夫九段（60歳）

このうち個性派の花村九段は60歳でA級に昇級するという異常な記録を持ち合わせています。花村九段については後でも触れます。

ではさらにその10年前、第50期順位戦を見てみましょうか。これは平成3年度（1992年度）で、僕にとってはある対局が思い起こされます。

当時の名人は中原誠。さすが、安定の位置といったところでしょうか。

A級の顔ぶれは米長、谷川、塚田、南、内藤、高橋、大山、有吉、小林、石田。

この期のA級は6勝3敗が4人出て、結局4者プレーオフという異例の事態となりました。このプレーオフに参加したのが谷川、南、高橋、そして大山。このとき大山はなんと69歳。これが最後の順位戦となりました。69歳でA級に在位しながら生涯現役で死去。こんなに格好いい棋士人生の終わり方はありません（もちろん長生きしてほしいのですが）。

結局挑戦者になったのは大山ではなく高橋でしたが、このときの大山のA級順位戦最終局は今でも語り草になる名局です。相手は当時脂ののっている谷川浩司竜王。

当時大山は癌の大きな手術により休場をしたりして、調子は思わしくありませんでした。順位戦でもどちらかといえば降級争い。下馬評は圧倒的に「谷川有利」だったのです。

しかし、大山はその谷川に鉄壁の指し回しで完封に近い勝ち方をします。その有名な手が出たのがこの局面。

これは大山が6七に金を打った局面です。普通はここに金は打ちません。4二金と攻め合い、7七角成と突っ込んでくるのを待ってその角を使って攻め合います。それで勝ちだと当時控室では結論が出ていたといえます。不世出の棋士である大山がその手を考えなかったはずはありませんが、指されてみるとなるほど、6七金と指されたこの局面は後手の二枚の角の働きが悪く先手の5三のと金の存在が光ります。何よりも、後手からは攻めの手段がないのです。実戦はこのあと7三桂、6三歩成、3二角、5四歩、6五桂打、同桂、7六竜、同金、7九飛、4二と（同金なら3四桂）で投了となりました。3五の成銀も何かを物語っているように思えます。



大山は晩年「A級から降級したら現役を引退する」と宣言していました。この前の第49期や第48期でギリギリの残留劇をくり抜き、最後に脂ののっている時代の谷川を完封し、大山がプレーオフに進出したこと、そしてこの年の7月26日に大山が亡くなったことを思うと胸が熱くなります。

大山についていろいろと深掘りしてしまいましたが、ここから各棋士の紹介に移っていきたいと思います。最初はやはり大山から。

大山康晴十五世名人 (1923-1992)

大山はさっき見ていただいたように受けの達人で、後に紹介する中原誠十六世名人によると「五目並べを2で止めるイメージ」だといいます。大山は受けの強さに特徴があり、卓越した終盤力の持ち主でありながらもそもそもギリギリの終盤にさせずにポロ勝ちしてしまうような勝ち方も多いです。終盤になったかと思いきや受けの手を連発してまた流れがを穏やかにしてしまうことも珍しくなかったので「大山には終盤が二度ある」と言われました。大山と言えば振り飛車、のイメージがありますが若い頃は居飛車党で最初に名人を木村義雄十四世名人から獲ったときも相居飛車でした。後述する兄弟子の野源一九段から振り飛車を勧められたというエピソードがあります。

無敵時代を作って名人を13連覇、通算で名人を18期獲得、そして名人・A級合計の通算在位数が

なんと 45 期。異常といって差し支えないと思います。この記録が今後破られるようには筆者には思えません。

大山の無敵時代はあまりに強すぎてむしろ語られることが少なく、逆にその晩年が有名です。先述したように「A 級から陥落したら引退」を宣言し、さすがの大山とはいえ年齢による衰えは否めず、晩年には毎年のように降級争いに絡むようになり、年度末になると毎年大山の運命が話題になるような状況でしたが、独特の勝負術で生涯 A 級を貫きました。また盤外戦術等のエピソードにも事欠かず、まさに勝負の鬼です。ここまでの雰囲気でお察しいただけたかもしれませんが筆者の大好きな棋士です。

ここで、有名な木村義雄十四世名人、升田幸三実力制第四代名人、中原誠十六世名人、米長邦雄永世棋聖、そして加藤一二三九段については非常に簡潔な紹介にとどめさせていただくことをご了承ください。まあ余りに有名な方々なので。

大山康晴十五世名人 <https://www.shogi.or.jp/player/pro/26.html> (日本将棋連盟)

まず**木村十四世名人**は戦前一時は将棋界で無敵を誇り、当時の八段陣（当時は「九段」はタイトルでしたから、超一流棋士ということが分かります）相手に香落ちでも勝ち越したりしていました。当時は振り飛車は亜流と見なされていましたし、木村自身も居飛車党でしたが香落ちの上手として振り飛車で八段にも勝っていたわけですから、さすが、振り飛車でも超一流だったのです。木村は第一期から第五期、そして塚田正夫に奪取されますがそのあと返り咲いて第八期から第十期の名人でした。最後は 1952 年に大山に名人を奪われ（名人の箱根越えが達成された）、「よき後継者を得た」の言葉とともに引退しました。

木村十四世名人 <https://www.shogi.or.jp/player/pro/2.html> (日本将棋連盟)

升田幸三は破天荒なエピソードで有名な人気棋士ですが、実は非常に研究熱心でもありました。昔は今と違ってプロ棋士でも限られた人しか序盤の研究などしなかったものですが、升田は音を立てて迷惑をかけないように布盤を使って皆が寝静まった夜に研究していたといいます。大山の兄弟子でもあります。大山との名勝負が知られますが若き頃は木村に闘志を燃やし、召集された南洋の島から月を見て「あの月が指し手を伝えてくれたら将棋が指せるのになあ」と願ったとか、「木村よ生きておれ」と祈ったとか、ガセネタかどうかは知りませんがそんなエピソードがあります。この「木村よ生きておれ」というのは将棋は相手があって始めて成立するものなのだとということを実感させる美しい話ではないでしょうか（ガセかどうかは知りませんが）。

升田幸三 <https://www.shogi.or.jp/player/pro/18.html> (日本将棋連盟)

中原誠は1947年生まれで大山の24歳下で、親子ほど年が離れていますが、大山との名勝負を繰り広げ、また大山に大きく勝ち越してもいる偉大な棋士です。奇をてらうことはほとんどなく「自然流」と称されました。米長とのライバル関係も有名でしょうか。桂使いの名手ともいわれます。

中原誠 <https://www.shogi.or.jp/player/pro/92.html> (日本将棋連盟)

米長邦雄も数々の破天荒はエピソードで知られ、著書には結構下ネタが出てきたりしますが、実績は言うまでもなく偉大な棋士のひとりです。序盤は比較的小おらかでリードを許してしまうこともありましたが中終盤に力を発揮し「泥沼流」と呼ばれました。一方で盤外では「さわやか流」とも。50歳で名人位にあったという最年長名人記録を持っていたりもします。これは25歳以上年下の「羽生世代」をはじめとする後輩に教えを乞うというひたむきな姿勢の賜物でした。普及活動に熱心で、日本将棋連盟会長の時代に会長自らコンピューター将棋との対局をしたり、新しいことを取り入れるのに積極的な棋士でもありました。

米長邦雄 <https://www.shogi.or.jp/player/pro/85.html> (日本将棋連盟)

加藤一二三九段は最近まで現役だった棋士です。14歳7か月で四段としてプロデビューし、77歳まで現役で、藤井聡太に更新されるまでは最年少棋士記録を持っていましたし（現在は歴代2位）、最高齢棋士記録を持ってもいます。現役勤続年数63年、最多対局数、最多敗数などの記録を持っており、騎士生活の息の長さが素晴らしい棋士です。名人・A級も通算36期で大山に次ぐ2位です。藤井聡太のデビュー戦の相手は加藤で、これは歴代の最高年齢差の対局でしたし、この記録は不滅と思います。最近あまり見ませんが一時は「ひふみん」としてお茶目キャラのような感じでテレビにもよく出演されていました。確かに加藤九段の喋り方は独特で面白いです。ただ「神武以来（このかた）の天才」の異名を取り、順位戦ではA級までストレート昇級を果たした（歴代で加藤と中原だけ）超一流棋士です。カトリックの信者で、コラムに巡礼の話などを書いていらっしゃいました。なぜ「神武以来」なのかと考えたところ、多分加藤九段の生まれが1940年1月1日で、この年は皇紀2600年だからだと思えます。エピソードにも事欠かず、ネクタイがめっちゃくちゃ長いとか、対局中に讃美歌を歌う（もちろん盤の前ではありませんが）とか、ご飯を本当にたくさん食べるとか、対局の日は必ず鰻重しか頼まず、昼食分と夕食分の鰻重の代金がぴったり左右のポケットに入れられていたとかありますが、いずれにしろ偉大な棋士に間違いありません。矢倉と棒銀が得意で、棒銀で負けたときに「棒銀は悪くない、加藤が悪いんだ」と言ったとか言わなかったとかいう話もあります。筆者がある将棋大会に参加したときに運営のおじいさんが加藤九段の大盤解説会に行った時のことや著書の話をして「すごく良心的な先生だった」と振り返っていたことが印象に残っています。

加藤一二三九段 <https://www.shogi.or.jp/player/pro/64.html> (日本将棋連盟)

さて、この辺まではまあ正直誰でも名前を知っているという棋士たちです。もちろん（升田や米長、加藤などは特に）それぞれ個性のある棋士ですが、他にも昭和には今となっては知る人も少し少なくなってしまった個性派棋士がたくさんいました。

山田道美九段

山田九段は1933年生まれで大山よりも一回り若い棋士ですが、1970年にA級に在籍したまま急死してしまいます。最後の公式戦を指してから12日後のことだったといえます。本当に急死でした。彼は「打倒大山」を掲げ、当時ほとんどなかった「研究会」を熱心に行い、対四間飛車の「山田定跡」の創始者としても知られます。このように将棋界に新たな風を起こした棋士でした。

山田道美九段 <https://jbpress.ismedia.jp/articles/-/65905> (JBpress)

二上達也九段

二上九段は羽生善治九段の師匠として知られている感もありますが、彼自身も偉大な棋士でした。1932年生まれで山田と同世代です。加藤は中学生棋士でストレートでA級に昇った棋士ですから非常に若くして既に一流棋士だったので、二上、山田、加藤はちょうど大山に向かっていった層というわけです。大山について、中原はこう語っています。「まさか何十回もタイトル戦で戦うようになるとは思いませんでした。年も離れていたし、当時は二上先生や加藤さん、それに亡くなった山田先生などの先輩がいずれ大山先生を倒して、その先輩たちに自分が挑戦することになると思っていたからです。」（藤井猛・鈴木宏彦著「現代に生きる大山振り飛車」p.8）しかし実際には大山の壁は厚く、大山と20回タイトル戦で戦っているのに（20回タイトル戦に登場するだけでその一流ぶりがわかる）、2回しか勝っていません。大山の全盛期が長く、その全盛期がかぶってしまったのが不運でした。「大山がいなければ永世名人になれた」と言われるほどの二上も名人は獲れなかったのです。ただA級には通算27期在籍したことからも偉大さは分かっていただけだと思います。

二上達也九段 <https://www.shogi.or.jp/player/pro/57.html> (日本将棋連盟)

内藤國雄九段

内藤九段は1939年生まれで、息の長い棋士生活を2015年に引退されています。内藤九段と言えばやはり「空中戦」。横歩取りや相掛かりで飛車角が乱舞するような戦いのイメージがあります。実際にはどんな戦法も指しました。次の項目の有吉道夫九段とライバル関係で実際に現役時代は内藤から見49勝44敗と相当拮抗した激闘を繰り広げました。詰将棋が得意で特に「玉方実戦初型」「攻方実戦初型」「ベン・ハー」など有名な作品もあります。歌手として「おゆき」というヒット曲を出して「棋士の中で最も歌がうまく、歌手の中で最も将棋が強い」と言われたりもしたといえます。

内藤國雄九段 <https://www.shogi.or.jp/player/pro/77.html> (日本将棋連盟)

有吉道夫九段

有吉九段は大山門下で1935年生まれと、大山と年齢差は12ほどでした。大山と何回も指定タイトル戦を戦ったというすごい記録を持ち合わせてもいます。A級通算21期は超一流棋士の証です。なお内藤はA級17期。また有吉九段も2010年まで息の長い棋士生活を送られました。60歳A級という大変な記録を持つ数少ない棋士でもあります。攻めの棋風で「火の玉流」と言われました。

有吉道夫九段 <https://www.shogi.or.jp/player/pro/66.html> (日本将棋連盟)

花村元司九段

花村九段は1917年生まれ。気ままに書いていると世代がぐちゃぐちゃになってしまい申し訳ありません。禿げ頭をツルリとなでるのがトレードマーク。元真剣師（賭け将棋で生計を立てる）という異色の経歴を持ち、戦時下の1944年に異例の五段編入試験に合格してプロデビューしました。奇抜な将棋を指すことでも知られ力将棋にめっぽう強かったです。また60歳でB級1組からA級に昇級したのは順位戦昇級の最高齢記録でもあります。タイトルこそ獲れませんでした。A級通算16期の一流棋士。早指しに強く、著書の自戦記の中で「遅刻で持ち時間が少し減ったが、これくらいは何の問題もない」と花村流の解説を書いていたります。元真剣師ということや、このようなエピソードから怖い人物と思われるかもしれませんが、弟子には非常にやさしいという一面も持っていたようです。

花村元司九段 <https://www.shogi.or.jp/player/pro/39.html> (日本将棋連盟)

灘蓮照九段

灘九段は棋士でありながら僧籍を持つこれまた異色の棋士で、「荒法師」とも呼ばれました。1927年生まれ。A級通算17期の偉大な棋士です。駒落ちの上手が異常に強かったらしいです。

灘蓮照九段 <https://www.shogi.or.jp/player/pro/44.html> (日本将棋連盟)

大内延介九段

大内九段は1941年生まれ。振り飛車穴熊とツノ銀中飛車のイメージがあります。鈴木大介九段の師匠なのですが、鈴木九段の親御さんが大内九段を大好きだったらしく、それで「大内延介」から取って大介と名付けたらしいです。「怒濤流」と呼ばれました。中原と1975年の第34期名人戦で対決した時は3勝3敗で迎えた第7局で勝ちの順を逃して持将棋に持ち込まれてしまい、その後負けて遂に名人を取り損ねてしまいました。しかしこの時の名人戦は名勝負として今でも語り草となっています。

大内延介九段 <https://www.shogi.or.jp/player/pro/86.html> (日本将棋連盟)

森安秀光九段

森安九段は1949年生まれとこの記事で紹介する棋士の中では一番若い（と言っても故人ですが）棋士です。四間飛車の非常に粘り強い棋風で知られ、「七転び八起き」から「だるま流」と名付けられました。四間飛車の剛腕で勝つ個性的な将棋を指しました。筆者は振り飛車が好きで、また受けが好きでもあるので粘り強い森安九段は好きな棋士のひとりと言えるかもしれません。……もっともあまり森安九段については存じませんが。

森安秀光九段 <https://www.shogi.or.jp/player/pro/99.html>（日本将棋連盟）

おわりに

この記事の中では「将棋は歩から」の命名で知られる加藤治郎名誉九段や、将棋界の発展に全力で貢献した原田泰夫九段、また名文家で知られる川口俊彦七段、棋界のプリンスといわれた真部一男九段（彼の創案の「真部流」には筆者も非常にお世話になっています）、また「終盤の魔術師と言われた独特の感性を持つ森雞二（けいじ）九段、名伯楽との呼び声高く、トラブルメーカーでもあった芹沢博文九段、あるいは現代の振り飛車を先取りしたような先見性のある将棋を指した、大山・升田の兄弟子にあたる大野源一九段（大野九段は本当に紹介したかった！）など、紙幅と筆者のスタミナにより紹介しきれなかった棋士がたくさんいることをお詫び申し上げます。

また、当記事では様々なエピソードを紹介しましたが、どこかで聞いたことがあるというような筆者の曖昧な記憶によるものも少なくなく、信憑性は全く保証いたしません。どうかご了承ください。

今将棋界は藤井聡太の登場などもあって活気にあふれており、ファンも今活躍している渡辺明、藤井聡太、永瀬、斎藤慎太郎といった棋士に注目しがちだと思います。実際それは良いことだと思います。しかし、昭和にも個性豊かな棋士が今以上にたくさんいたことを思い、また昭和の将棋にも目を向けていただければなあと思います。現代将棋はAIの発展もあって水面下での研究が熾烈となり、将棋の内容はファンには俄然理解しづらいものとなっているでしょう。戦型も変わってきました。現代のプロ同士で相矢倉には殆どなりませんし、振り飛車に対する急戦や玉頭位取り、5筋位取りなどは過去のものとなってしまいました。しかしこれらの将棋にもヒントがあるようにも思います。現代に通じるヒントが。

なにより昭和の将棋界も賑やかで面白かったんだということを平成半ばに生まれ令和に生きる筆者は伝えたかったということです。

ここまで駄文を連ね読者の時間と地球資源を浪費させてしまいましたが、お読みいただきどうもありがとうございました。

今年、佐々木朗希が最年少での完全試合・19 奪三振・13 者連続奪三振などを達成しました。同時に、槇原寛己の平成唯一の完全試合や野田浩司が達成した 19 奪三振などの古い記録が注目されるきっかけともなりました。温故知新ということばがあるように、過去を振りかえることは、今の私たちを知ることにつながります。この記事では、今まであまり知られていないであろう記録や、ニッチな記録を中心に取りあげています。

なお、シーズン 42 勝 (スタルヒン・稲尾和久)、シーズン 90 登板 (久保田智之)、通算 400 勝 (金田正一) などのメジャーな記録は、紙面の都合上割愛しました。ここで割愛したような有名な記録に興味のある方は、NPB の歴代最高記録ページ (<https://npb.jp/bis/history/>) などをご覧ください。

1. シーズン記録

1.1. 51 先発 林安夫 (1942)

現代なら、51 登板と勘違いしてしまうような記録です。戦前の記録ながら、51 先発は今に至るまで抜かれず、現代ではほぼ更新不可能といえる記録です。対戦した打者の数も、2079 人、投球回も 541.1 を数えています。しかし、これだけの投球にもかかわらず、防御率は 1.01、インニング毎に出したランナーの数 (WHIP) は 0.90 と、安定した投球をしていたことがわかります。

なお、林は記録達成の翌々年に応召され、その後日本の土を踏むことはありませんでした。

1.2. 47 完投 別所毅彦 (1947)

春の甲子園で、骨折しながらも投球を続けたという逸話をもつ鉄腕は、シーズン完投の日本記録も持っています。去年の完投数が 12 球団あわせて 50 であることを考えると、あらためてこの記録の妙を感じとることができるのではないのでしょうか。林同様、防御率は 1.87 と良好で、30 勝を挙げています。また、別所は 300 勝投手でありながら、通算 35HR 500 安打を記録しており、打者としても優秀だったことがわかります。

1.3. 401 奪三振 江夏豊 (1968)

昭和の奪三振王の偉大な記録は、一試合に 10 個三振を奪ったとしても、40 試合投げる必要があるという、現代では達成が難しいものです。しかし、真に注目すべきなのは、10.97 という奪三振率 (歴代 6 位) でしょう。昭和期間のシーズン奪三振率 10 点台は、この 1 年のみです。同時代の大投手たちの通算奪三振率と比べてみると、その記録の偉大さが一層際立ちます。

江夏豊	(1967～84)	8.41
金田正一	(1950～69)	7.31
稲尾和久	(1956～69)	6.44
村山実	(1959～72)	6.70
村田兆治	(1968～90)	6.38

この時期、ストレートとカーブしか投げなかったというから、驚くほかありません。江夏はこの年も含めて6年連続の最多奪三振を獲得しています。

1.4. 得点圏打率.492 落合博満 (1985)

パワーとミートを兼ねそなえた稀代の右打者が二度目の三冠王に輝いた1985年、.367 52HR 146打点と一緒についてきた記録が、現代に至るまで破られていない、シーズン得点圏打率の記録です。この年の打率と実に1割以上の開きがあり、ここ1番にかける集中力の強さを見てとることができます。セイバーメトリクスによれば、「勝負強い打者」は存在しないそうですが（得点圏打率の年度ごとの相関係数は0.1以下）、このような記録を見るに、直感と統計との乖離を感じるばかりです。言うにおよばず、翌年も落合は史上初の三度目の三冠王を獲得、その後も中日・巨人・日本ハムですばらしい記録の数々を打ちたてることとなります。

1.5. 6三振 坪内道典 (1946) 酒沢成治 川上哲治 (1951) シーズン通じてわずか6三振と驚異的な記録ですが、3人も達成者がいるのもこの記録のおもしろさです。三人とも300打席以上立っての記録ですから、実に2%以下しか三振していないということになります。また、この記録時に、坪内は.316、川上は.377（首位打者）とハイ・アベレージですが、酒沢は.220という低打率での達成となっていることにも着目すべきでしょう。ちなみに、酒沢は当時の日本記録である、153打席連続無三振も達成しています。

1.6. 29盗塁死 河野旭輝 (1956)

去年のパ・リーグの最高盗塁数である24をも上回る盗塁死の数です。しかしながら、これだけの数字にもかかわらず、盗塁成功率は74.6%、85盗塁で盗塁王も獲得しています。セイバーメトリクスによれば、盗塁の損益分岐点は、盗塁死の2倍といわれており、この水準を悠々とクリアしてしまう盗塁を記録しているのですから、素晴らしいという他ありません。

1.7. 28死球 グレグ・ラロック (2007)

7年間のNPB生活で、通算.290 123HR 372打点を記録した助っ人のもつ珍記録が、シーズン28死球です。死球の新記録更新の瞬間は、ヘルメットを取って深々とお辞儀をし、ファンの歓声に応えました。規定打席に到達した3シーズンではいずれも最多死球を記録する、死球に恵まれた(?)選手でした。ちなみにシーズン与死球記録は、森安敏明のもつ22で、今日に至るまで半世紀以上破られていない記録です。

1.8. 442 被安打 202 失点 真田重蔵 (1946)

一見何がすごいのかよくわからない記録ですが、一試合 10 失点を 20 回達成しなければならないと考えると、すさまじい記録です。被安打でも、20 被安打を 22 回達成しなければならず、現代野球ではおよそ考えられない数字といえるでしょう。真田はこの年、464.2 回を投げており、防御率も 3.15 という値に落ちついています。また、これだけ安打を浴び、失点していながら、被本塁打がわずか 4 なのも、特筆すべきでしょう。なお、この年の自責点は 163 を記録しており（歴代最高）、失点と 39 点もの開きがあります。

1.9. 12 ボーク エステバン・ジャン (2007)

11 年間のメジャー生活で、7 球団を渡り歩いた右の剛腕は、2007 年、阪神タイガースに年俵 2 億 8000 万円で鳴り物入りの入団を果たしました。しかし、セットポジションでグラブを動かしてしまうという悪癖があり、104.1 イニングで 12 個ものボークを記録しました。実に 8.6 イニングに 1 回ボークをしている計算になります。結局ジャンはこの年限りでの退団となりましたが、わずか 1 年の在籍にもかかわらず、通算 12 ボークは歴代 9 位タイの記録です。

1.10. 5 本盗 与那嶺要 (1951)

3 度の首位打者に輝き、監督としても巨人の V10 を阻止した野球人は、意外な記録ももっています。他にも与那嶺は、1 試合 2 本盗、通算 11 本盗と本盗に関する日本記録を 3 つも持っています。また、シーズン 38 盗塁を達成しているものの、これだけの俊足を持ちながら一度も盗塁王を獲得したことがないのも、与那嶺の意外さです。

1.11. 908 得点 松竹ロビンス (1950)

「水爆打線」と呼ばれ、史上初の日本シリーズ出場も果たした松竹ロビンスが持つのが、シーズン得点記録です。この年の松竹は、137 試合を戦っていますから、1 試合当たり 6.62 点取っている計算になります。ペナントレースでも歴代 2 位となる 98 勝を記録しており、チームの中心打者だった小鶴誠は、.355 51HR で、今なお破られていない記録である、161 打点、143 得点、376 塁打を同時に達成しています。

1.12. 129 試合連続得点 ヤクルトスワローズ (1978)

130 試合制だった当時、開幕から 129 試合連続で得点を挙げ続けたという、ヤクルトの瞠目すべき記録です。シーズン最終戦で広島に完封負けし、全試合得点はなりませんでしたが、球団創設以来のリーグ優勝、さらにそのままの勢いで阪急との激戦を制し、日本シリーズ制覇を成しとげました。なお、1 シーズンに限らない連続試合得点記録は、1979 年から翌年にかけて近鉄が達成した 215 試合です。ちなみに、この年の近鉄も日本シリーズにも駒を進め、第 7 戦で「江夏の 21 球」を経験することになります。

コラム 条件つき記録

40歳で44HR 門田博光（1988）

当時「不惑の大砲」と呼ばれ、通算でも歴代3位のホームラン数を誇るスラッガーのもつ、最年長本塁打王記録。あの王貞治でさえ、40歳では30本塁打（それでも充分すごいのですが）であることを考えると、この記録の偉大さをうかがい知ることができます。なお、この年、門田はMVP・打点王を獲得しており、こちらも最年長記録となっています。

.279 29HR で147打点 今岡誠（2005）

「変態打法」「悪球打ちの天才」と称された5番打者のもつシーズン打点記録（歴代3位）。着眼すべきなのは打率とホームラン数です。試しに、似たシーズン記録をもつ打者と比べてみます。

野村克也（1971） .281 29HR 83 打点

衣笠祥雄（1982） .280 29HR 74 打点

門田博光（1990） .280 31HR 91 打点

球史に残る大打者たちでも、100打点を超えた者はありません。この点からも、この記録の異質さを垣間みることができます。特に、満塁時に.600 4HR 49打点を記録しており、圧倒的な勝負強さがかえります。この年、今岡の所属した阪神タイガースはリーグ優勝を決め、プレーオフを制した千葉ロッテマリーンズと伝説的な日本シリーズを戦うことになります。

44歳で開幕戦先発4番 落合博満（1998）

卓越したバッティング技術をもち、史上唯一三度の三冠王に輝いた不世出の天才は、晩年でも開幕4番の最年長記録を更新しました。特筆すべきなのは、この年の日本ハムが決して弱小チームではなく、優勝争いをしていたということです（最終的にはリーグ2位）。オープン戦で熾烈な争いを制し、44歳で開幕4番を掴みとったのは、驚嘆すべきことです。なおこの年の落合は、4月こそ好調を維持しましたが、次第に調子を落とし、この年で引退することになります。また、44歳3ヶ月での開幕戦先発出場も、長い間最年長記録でしたが、この記録は今年、福留孝介（44歳10ヶ月・3番）によって更新されました。

2. 試合記録

2.1. 16与四球 野茂英雄（1994/7/1）

トルネード投法で一世を風靡した荒れる剛腕は、こんな珍記録も保持しています。1991年7月1日、野茂英雄はコントロールが定まらず、ついに1試合16与四球というワースト記録を作りました。しかし、15残塁という西武の拙攻にも助けられ、なんと9回191球を投げきり、3失点の完投勝利を手にしています。この翌年、村上雅則以来30年ぶりの日本人メジャーリーガーとなった野茂は、最多奪三振のタイトルを獲得、新人王に輝きました。

2.2. 6 四球 落合博満 (1991/10/13)

四度目の三冠王を狙う 37 歳の落合は、プロ 2 年目の古田敦也と首位打者を争うこととなります。1991 年 10 月 13 日、中日とヤクルトの最終戦、古田は僅差で打率首位でした。そこで、ヤクルトの野村監督は落合を徹底的に歩かせる戦略に出ます。その結果、1 試合 6 四球という記録が生まれたのです。しかし、翌々日の広島とのダブルヘッダーで、落合は 6 打数 5 安打の固め打ちで、ふたたび打率トップに躍り出ます。ここで、落合はシーズンを終え、古田の最終戦だけが残りました。しかし、落合同様に古田もここ一番の強さを発揮しました。最終戦でヒットを放ち、再逆転を果たすと、下記のようにわずか .00024 の差で、首位打者を獲得したのです。

古田敦也 (1991) .33981

落合博満 (1991) .33957

2.3. 20 守備機会 松川虎生 (2022/4/10)

野球で奪うべき 27 個のアウトのうち、実に 20 個を一人の守備機会で取ったという、一見ドキッとさせる記録です。これは佐々木朗希が完全試合と同時に 1 試合 19 奪三振を達成したときの記録で、内訳は 19 個の三振と 1 つのキャッチャーフライとなっています。意味がわかれば納得のいくものですが、一瞬戸惑ってしまうひとも多いかもしれません。

2.4. 試合時間 55 分 大阪タイガース、パシフィック (1946/7/26)

2 リーグ制が始まる前の 1946 年 7 月 26 日、西宮球場のデーゲームである記録が生まれました。大阪タイガースの先発の渡邊誠太郎は持ち前の打たせて取るピッチングで、9 回を 88 球で完封。対戦相手の湯浅芳彰も好投し、8 回を 91 球、1 失点と好投しましたが、惜しくも敗戦しました。終わってみれば、試合時間はわずか 55 分で、今に至るまでこの記録は破られていません。

3. イニング記録

3.1. 3 打席 大松尚逸 (2009/6/11)

2009 年 6 月 11 日、ロッテ対広島戦の 6 回裏は、歴史的なイニングとなりました。この回のロッテの攻撃で、先頭の福浦がヒットを放つと、続く大松尚逸はサードフライに斃れます。しかし、この後打者二巡の猛攻で、一挙 15 点を奪います。代走を送られた福浦が 3 度目の打席に立つことはありませんでしたが、続く大松が 3 度目の打席に立ってライトフライに倒れ、この回の 48 分にもおよび攻撃は終了。結果的に 1 イニング打者 20 人、14 人連続得点、14 打点、15 得点、3 打席という 5 つの日本記録が生まれました。

3.2. 無失点で50球 ロベルト・スアレス (2019/7/31)

一イニングの最多投球数は、2004年に吉野誠が記録した64ですが、インパクトはこちらの方が大きいでしょう。ロベルト・スアレスがまだソフトバンクで先発をしていたときの記録です。初回到3つのフォアボールで2死満塁のピンチを招くものの、5番・中村剛也を三振に打ちとり、無失点で切りぬけました。最終的に4回105球1安打無失点で降板し、まづまづの投球内容となっています。なお、スアレスはこの翌年に阪神に移籍し、2度のセーブ王に輝くなど、リーグを代表するクローザーとして活躍しました。

4. 連続記録

4.1. 6日連続セーブ 小林雅英、岩瀬仁紀、藤川球児、青山浩二、涌井秀章

「6試合連続セーブ」ではないことに注意が必要です（連続試合セーブ記録は森唯斗の7）。この記録達成の難しさは、前提として

- ① 所属するチームが6日連続で試合がある
- ② 所属するチームが6連勝する
- ③ 連勝した6試合の全てにセーブシチュエーションが存在する

という高いハードルが存在することです。この3つの前提をクリアした上で、

- ④ 6連投でき、すべての試合をセーブできる

というクローザーとしての力も問われる、運と実力を兼ねそなえた投手にしか達成できないものです。これほどの難易度にも関わらず、5人もの達成者がいることも注目すべきでしょう。

4.2. 28連敗 権藤正利 (1955～57)

半世紀以上破られていない28連敗という記録は、そんなに難しい記録には見えませんが、少し検討してみると、かなりの難関であることがわかります。まずこれだけ負けるには、それなりの試合数を投げる必要があります。この記録達成も足掛け3年を要しており、連敗している間も、1軍に居続けられるようにそれなりの成績を維持する必要があるのです。現に、0勝13敗に終わった1956年も、防御率は4.03と、先発投手として最低限の水準は満たしている数字です。この28連敗の後、権藤は復活を遂げ、1957年の防御率は2.74と立て直しています。最終的には、21年間の現役で防御率2.78、117勝という成績を残しており、息の長い活躍を見せました。

4.3. 3者連続与死球 望月卓也、田島慎二

3者連続与死球という、ある意味では人間性を疑われかねない記録は、なんとセ・パ両リーグで2人の達成者がいます。ひとつは1979年5月12日、ロッテ対日本ハム戦で、3番手として上がった望月卓也が3連続死球を記録、結果的にこの試合では1試合7与死球という日本記録が打ち立てられました。もうひとつは、2014年7月4日の中日対巨人戦で、7回に登板した田島慎二が3連続死球を与えたものです。無死満塁となりましたが、後続を打ちとり、この回を無失点で切り抜けていま

す。このシーズンは防御率 5.12 と苦しみましたが、翌年は 64 試合に投げて 2.28 と本来の力を取りもどしています。

4.4. 18 連敗 千葉ロッテマリーンズ (1998)

首位を走っていたロッテを、最下位に突きおとした 18 連敗は、「七夕の悲劇」と言われる壮絶なドラマとともに語り継がれています。1998 年 7 月 7 日、当時 16 連敗中だったロッテは、当時のワースト記録に並んでいました。連敗ストップに意気込む、若手のホープ黒木知宏は気迫の投球で、オリックス打線を 8 回まで 1 失点に抑える好投を見せます。ロッテ打線もそれに応えて 3-1 と 2 点のリードを奪いました。そして 9 回裏、連敗脱出のマウンドに立った黒木は、ランナーを出すものの二死をとり、ランナー 1 塁で打席にハービー・プリアムを迎えます。最後の力を振りしぼり、外角のストレートで 2 ストライク 1 ボールと追いこんだ黒木。しかし、連敗脱出まであと 1 ストライクという状況で、プリアムに投じた 139 球目・146km/h のストレートは、無情にもレフトスタンドに飛びこみ、同点ホームランとなります。黒木は被弾の瞬間膝から崩れ落ち、チームメイトに抱きかかえられ、泣きながら降板しました。試合はそのまま延長戦に突入し、12 回裏、広永益隆にサヨナラ満塁ホームランを打たれ、チームは敗北。翌日もロッテは敗戦し、18 連敗という日本記録を樹立しました。

ちなみに、この試合でサヨナラ満塁ホームランを打った広永は、史上 2 人目となる両リーグサヨナラ満塁ホームランの達成者です。

コラム 高校野球の記録

江川卓

公式戦 36 イニング連続無安打無失点

ノーヒットノーラン 9 回

完全試合 2 回

「怪物」は、高校 2 年生にして圧倒的でした。1972 年夏、全国大会栃木県予選で、2 回戦、3 回戦、準々決勝と 3 試合連続でノーヒットノーランを達成した江川卓は、大会 4 試合目となる小山戦に臨みます。ここでも江川は圧倒的なピッチングを見せ、10 回二死まで無安打無失点に抑えますが、サヨナラスクイズによって力尽き、悲運の敗戦を喫します。しかし、この 4 試合で達成した、36 イニング連続無安打無失点は、プロ野球などを含めた公式戦の記録の頂点として、50 年間破られていません。

5. 偉人の記録

5.1. 王貞治

13年連続本塁打王
シーズン出塁率 .532
シーズン OPS 1.293
通算出塁率 .446
通算 OPS 1.080
通算本塁打 868 本
1 試合 2 本塁打 95 回

他の追隨を許さない通算 868 本塁打という記録をもつ「世界の王」ですが、あらためて振りかえっても、偉大な成績を数多く残しています。15年連続本塁打王、シーズン出塁率.532 など、超人的な記録がたくさんありますが、1 試合 2 本塁打 95 回というのも、知られざる大記録でしょう。この記録の 2 位は田淵幸一の 60 回であることを考えれば、王の成績がいかに飛びぬけているかよくわかります。

5.2. 野村克也

8年連続本塁打王
ベストナイン 19 回
通算 11970 打席
通算 10472 打数
通算 113 犠飛
通算 378 併殺打

南海・ヤクルト・阪神・楽天の 4 球団で采配を振るった名監督は、打者としても傑出した成績を残しています。特に 8年連続本塁打王は、王の 15年連続には及ばないものの、現在ではおよそ相当する打者が思いあたりません。右打者として落合と双璧を為す存在といえます。また、南海の正捕手の座を 22 年間守り続け、19 回ベストナインを獲得し、長きにわたりリーグを代表する捕手であり続けたのも、注目すべき業績です。

5.3. 福本豊

13年連続盗塁王
シーズン 106 盗塁
通算 1065 盗塁
通算 299 盗塁死

足を駆使する選手には怪我がつきものですが、これは球界最高の足のスペシャリストにはあてはまりませんでした。13年連続盗塁王は、2 位の 5 年連続（広瀬叔功・赤星憲広）の追隨を許さず、圧倒的記録として君臨し続けています。

5.4. 金本知憲

1002 打席連続無併殺

1492 試合連続フルイニング出場

規定打席未到達 全試合出場

カル・リプケンの903試合連続フルイニング出場を超える1492試合連続フルイニング出場を達成し、4番としてチームを牽引、2度のリーグ優勝に導いた鉄人は、1002打席連続無併殺という驚異の記録をもっています。常に全力疾走を欠かさなかったからこそこの記録といえるでしょう。また、規定打席未到達で全試合出場を果たすという史上初の珍記録ももっていますが、若手の機会を不当に奪ったという負の側面も指摘されています。

5.5. ラルフ・ブライアント

シーズン 204 三振

1 試合 3 本塁打 8 回

中日の2軍でくすぶっていた助っ人は、1988年、トレードで近鉄に移籍すると、仰木監督の助言のもとで持ち前の長打力を開花させ、通算8年間の在籍で本塁打王を3度獲得しました。そのパワーの代償となったのが、膨大な三振数です。近鉄から移籍した2年目の1989年、187三振で最多三振となると、以後規定打席に到達したシーズンは全て、リーグ最多三振を記録しています。この間に達成したのが、今日まで更新されていない、シーズン204三振で、アウトの実に54%が三振という記録です。ちなみに、NPBの三振記録の上位三傑は、ブライアントが独占しています。しかしながら、通算で1試合3本塁打8回という記録は、2位の5回（王貞治）をも凌ぎ、他にもシーズン4度の1試合3本塁打という世界記録も保持しています。

5.6. 野口二郎

シーズン 19 完封

シーズン 13 無四球試合

シーズン 40 勝

一試合 344 投球

31 試合連続安打

通算 237 勝 830 安打

通算259完投の鉄腕は、シーズン13無四球試合や54.1投球回連続無四死球など、コントロールに優れていたことをうかがわせる記録を数多く残しています。しかし、今日の視点から見て最も新鮮なのは、237勝を挙げながら、830本もの安打を打っていることでしょう。現在メジャーで投打に活躍する選手が話題になっていますが、元祖二刀流ともいべきこの記録は、より一層輝いて見えます。

5.7. 鶴岡一人

23年連続同一チーム監督 (1946~68)

監督通算 1773 勝

監督通算勝率 .609

日本一 2 回 リーグ優勝 11 回 A クラス 21 回 B クラス 2 回

野村克也、広瀬叔功、杉浦忠などの名選手を擁し、南海の黄金時代を築いた名監督は、23年もの長きにわたって、指揮をとり続けました。通算で3000試合近くを戦いながら、勝率6割というのには驚くほかありません。精神論を重視した一方で、データを用いた采配も取り入れるなどの先進性を見せ、この方針は次期監督だった野村に引き継がれます。しかし、鶴岡との確執のうちに野村が南海を去ると、チームは後継球団のダイエーを含めて、20年連続Bクラスという長い低迷期に入ることになりました。

5.8. 佐々木朗希

史上最年少での完全試合

1 試合 19 奪三振

13 者連続奪三振

8 者連続空振り三振

52 者連続凡退

17 イニング連続無安打

高校時代 163km/h を計測したといわれる令和の怪物が、ついにヴェールを脱ぎました。高卒3年目とは思えない記録の数々は、まさしく怪物の名にふさわしいものです。今後どうなるか全く予測がつかない投手ですが、とりあえず怪我がないことを祈るばかりです。

おまけ 海の向こうの記録

お.1. サイ・ヤング

通算 815 先発

通算 749 完投

通算 7356 投球回

通算 511 勝

金田正一の400勝を111個も上回る通算511勝は、MLBのスケールの大きさを感じる記録です。通算749完投は、2021年のNPBの完投数の25年分にあたります。

お.2. ノーラン・ライアン

シーズン 383 奪三振

通算 2795 与四球

通算 277 暴投

通算 5714 奪三振

世界一のパワーピッチャーが成しとげた通算奪三振記録は、200 奪三振を 28 年続けても達成できない、圧倒的なものです。昭和の奪三振王・江夏をもはるかに凌ぐ通算奪三振率 9.55 というのも、アメリカ野球の力強さを感じさせる数字です。

お.3. バリー・ボンズ

500 盗塁・500 本塁打

シーズン 73 本塁打

シーズン長打率 .863

シーズン 120 敬遠

シーズン出塁率 .609

シーズン OPS 1.422

通算 762 本塁打

黒い疑惑のつきまとうスラッガーは、若い日にはシーズン 50 盗塁を記録することもあるなど、スピードとパワーをもつ 5 ツールプレイヤーとして活躍していました。しかし、イチローがメジャーリーグに移籍した 2001 年、前年度より 20 本塁打以上多い 73 本塁打でシーズン記録を樹立すると、2004 年には圧倒的な四球責めで、シーズン 120 敬遠・出塁率.609・OPS1.422 というある意味グロテスクな記録を作りあげます。しかし、ある種の異常を感じさせるこの記録も、卓越性には変わりはなく、今後も語りつがれていくでしょう。

謝辞

この記事を書くにあたり、主に Wikipedia と YouTube にアップロードされている試合の映像、それに NPB の公式ページなどを参考にしました。情報の正確性には疑問符がつくかもしれませんが、論文を書くわけでもなし、カンベンしてください。日々 Wikipedia を更新してくださっている、世界のどこかにいる野球ファンのみなさまには、この場を借りて深く御礼申し上げます。

突然だが、皆様は猫にどういうイメージを持っているだろうか。凜としている？ ずる賢い？ か弱い？ まぬけ？ どうだろう。例えば「犬」といえばさまざまな意味がある。単なる犬、頼りになる相棒、スパイ、無駄なもの、似て非なるもの。対して猫はどうだ。自分は「猫背」「猫舌」「猫かぶり」しか思いつかないではないか。「猫らしさ」とは何であろうか。

そこで私は普段聴いている歌の歌詞に目をつけた。猫好きはごまんといから、音楽を作る方々の中にも猫が好きなのは多い。当然、猫を比喩表現として用いた曲、猫について歌った曲も多くなる。それらの歌詞から「猫」の概念をある程度見出すことは可能なのではないか。なんていう突拍子もない思いつきから始まったこの研究の経過と結果をここに書きたいと思う。

最初に言っておきたいのだが、この研究によって何か新しい発見があったというわけではない。研究などという大それた代物ではないということである。期待せず、純粋に歌詞を楽しんでいただければ幸いだ。加えて、この記事を読む上で、歌詞を読み飛ばすことだけは、どうか、やめていただきたい。

〈調査対象〉

大量の猫ソングから厳選された、調査対象となる楽曲は以下の10曲である。初出が早いものから並べた。どの歌詞もクオリティが高いので、まず曲を聴いて、本文を読み、再度曲を聴いてみるという楽しみ方もおすすめである。

- ① ローラー・スケートをはいた猫／松田聖子
- ② 猫になりたい／スピッツ
- ③ 野良猫のうた／斉藤和義
- ④ 猫／aiko
- ⑤ こたつねこ／ザ・クロマニヨンズ
- ⑥ 黒猫道／東京事変
- ⑦ ホラ吹き猫野郎／米津玄師
- ⑧ 君が猫で僕が犬／クリープハイブ
- ⑨ 猫／DISH//
- ⑩ 夏模様の猫／Official 髭男dism

〈調査方法〉

それぞれの歌詞の意味を分析するにあたって、プロセスに一貫性をもたせるために、以下の共通の調査・考察事項を設けた。

- A 楽曲情報（初出 CD のリリース年、アーティスト名、作詞者、作曲者）
- B 歌詞のストーリー
- C 歌詞において、「猫」とは何の比喩であるか
- D 歌詞において、「猫」とはどういう存在であるか（＝「猫」のイメージ）

〈著作権について〉 歌詞は、引用の形式を厳守すれば、著作権者に無断で使用できるので、そのために、歌詞を斜体で表記し、曲のタイトルと作詞者を明示した。また、歌詞を無条件に全て記すと、本文と歌詞の主従関係が曖昧になる恐れがあるため、必要に応じて一部だけを抜粋した。

① ローラー・スケートをはいた猫／松田聖子

A

リリース：1986年、13th アルバム「SUPREME」の3曲目として

アーティスト：松田聖子

作詞：松本隆

作曲：亀井登志夫

松本隆といえば、「赤いスイートピー」「木綿のハンカチーフ」「硝子の少年」「風をあつめて」など、多すぎるほどのヒットソングの歌詞を手がけた、言わずと知れた作詞家・ミュージシャンである。作曲する前に作詞をする「詞先」として知られる。

・歌詞（一部）

冷たい人なの ほんと
勝手に気ままで自由
優しいとこって爪ほどもないの
でもいいの
スピードですぎて私が
悲鳴をあげると笑うの
ローラー・スケートはいてる
迷子の仔猫みたいね
私ほっぺをふくらませて怒る

もう知らない
いいのよ優しくしないで
クールなあなたが好きなの
ローラー・スケートははいてる
迷子の仔猫みたいね
私黙ってあなたについてくわ
ねえ待ってて
待ってて

(『ローラー・スケートをはいた猫』作詞／松本隆)

B 抜粋した歌詞は曲の後半部分だが、前半部分の歌詞をみると、「私」と「あなた」は海辺でスケートボードに興じていることがわかる。「あなた」は非常にスケートボードが達者で、彼女にみせびらかすようにダイナミックに動き回る。そして、「あなた」はなんとも冷たく、スケートボードが上手でない「私」はいつもおいてきぼりにされてしまう。抜粋した後半部分では、「あなた」は冷たくて自分勝手に、スピードが出過ぎて怖がる「私」を笑ったりもする。そんな「あなた」に「私」は頬を膨らませて分かりやすく怒るが、「でもいいの」「クールなあなたが好きなの」と内心ではちっとも怒っていない。ただ、「あなた」に待つて待つてと一生懸命ついていくのみである。

C 「ローラー・スケートははいてる迷子の仔猫」とは、一体何のことだろうか。歌詞に登場する二人がスケートボードに乗っていて、「あなた」の方は巧みに乗りこなしていることを考えると、「仔猫」はずばり「私」である。スケートボードに乗っているつもりなのに、どうしてもうまく進めない「私」は、そんなぎこちない自分を猫に喩え、自虐しているのだ。ローラー・スケートをはいた仔猫を想像してほしい。なんともコミカルで、可愛い姿ではないだろうか。しかし、歌詞は「私」を「迷子」だとも言っている。これは、「私」がずっと先を行ってしまう「あなた」に置いてかれ、孤独感を抱いているということだろう。スケートボードに乗るもうまく進めない女性の姿を、「ローラー・スケートをはいているようだ」と表現してしまうところに、松本隆の卓越したセンスを感じる。

D これは私の主観だが、ぽつんと取り残された迷子の仔猫、特に段ボールなんかに入っている捨てられた仔猫の姿は、人間が迷子になっている姿よりもずっと弱々しく、心もとない印象がある。そしてこの歌詞では、そういった「仔猫」が持つ弱いイメージを利用しているのではないかと考えた。

②猫になりたい／スピッツ

A

リリース：1994年、9th シングル「青い車」のカップリング曲として

アーティスト：スピッツ

作詞：草野正宗

作曲：草野正宗

草野正宗は、スピッツのボーカル草野マサムネが楽曲制作の際に用いる名義である。彼が書く歌詞はしばしば「不思議」「意味がよくわからない」などと言われるが、いい加減に作っているのではなくて、彼自身もあえてさまざまな解釈ができるように作詞しているらしく、そんな心地よい分厚さを持つスピッツの歌詞には定評がある。

・歌詞（一部）

灯りを消したまま話を続けたら
ガラスの向こう側で 星がひとつ消えた
からまわりしながら 通りを駆け抜けて
砕けるその時は君の名前だけ呼ぶよ
広すぎる霊園のそばの このアパートは薄ぐもり
暖かい幻を見てた

猫になりたい 君の腕の中
寂しい夜が終わるまで ここにいたいよ
猫になりたい 言葉ははかない
消えないようにキズつけてあげるよ

目を閉じて浮かべた 密やかな逃げ場所は
シチリアの浜辺の絵ハガキとよく似てた
砂ぼこりにまみれて歩く 街は季節を嫌ってる
つくられた安らぎを捨てて

猫になりたい 君の腕の中
寂しい夜が終わるまで ここにいたいよ
猫になりたい 言葉ははかない
消えないようにキズつけてあげるよ

（『猫になりたい』作詞／草野正宗）

B 抜粋した歌詞は一部だが、残りはサビの反復なので、歌詞の内容は上記が全てである。まず、サビに注目すると、「猫になりたい 君の腕の中」という歌詞から、ひとりの人間が大切なひとを想い、寂しさを埋めるべく「君」に甘えたい、という解釈ができる。もちろん、歌詞全体をこれに沿って読み解くことも可能だ。しかし、もっと興味深い考え方がある。一番分かりやすいのは冒頭の部分。話をしている相手が「君」であるとすれば、なぜ主人公は灯りを消しているのか。なぜ「君」と話をしているのに、夜空の星がふっと見えなくなったことに気づいたのか。それは、目の前に「君」はおらず、主人公が星に向かって話しかけているからである。このことから、「君」は亡き人なのではないかと考えられる。流れるようなメロディーに乗ってすると現れる「霊園」の歌詞も、その予感を確かなものにする。そして、最も”意味がよくわからない”部分である「消えないようにキズつけてあげるよ」という歌詞。「キズつけ」る相手が、亡くなった「君」であれば当然傷をつけることは不可能だ。なのに、主人公は「君」を「消えないように」傷つけようとする。「この世にいない人を傷つきたい。その人が消えないように」というのはかなりの矛盾を孕んでいるように見えるが、サビ（「猫になりたい」～「キズつけてあげるよ」）に入る前に「暖かい幻を見てた」とある。これはサビの内容が主人公の妄想であることを示しているのだろう。主人公は「君」の生きている姿を妄想し、猫として「君」に抱かれながら「君」を傷つけようとする。もし傷がついたら、「君」は幻ではなくなるから。「傷つきたい」という感情は、「君」がいなくなって寂しい、虚しい、生身の「君」が目の前に現れてほしい、という切実な願いの裏返しなのではないだろうか。ここでひとつ気になるのは、「キズつけて」と傷が片仮名で表記されていることである。もしかすると、ここでの「キズつける」というのは単に怪我を負わせることではなく、「君」に触れたいという感情を狂気に表した言葉なのかもしれない。また、「言葉ははかない」について、なぜ「儂い」と表記しないのだろうか。私の考えでは、「はかない」は「儂い」と「吐かない」をかけている。「言葉は儂いから、『寂しかった』とかの弱音を吐く前に、君の腕に抱かれながら、消えゆく君を捕まえたいよ」といったところだろう。やはりスピッツの歌詞は解釈の幅が広い。「シチリアの浜辺」あたりの歌詞も、あなたなりの解釈を見つけてみてはいかがだろうか。

C 猫はよく、何も無い空間をじっと見つめていることがあるそうで、その目つきから「猫は霊が見える」という迷信が昔からある。「猫になりたい」とは、もし猫になれば「君」に会えるのに、という実現不可能な願望を表しているのだろう。ここでの「猫」は何かの比喻ではなく、動物として、ペットとしての「猫」だと思われる。

D 「猫になりたい 君の腕の中」から、猫は「常に人間に抱かれている、甘えんぼう」というイメージがあることがわかる。また、BとCの内容から、あの世と繋がっている存在としての「猫」の意味もあると考えられる。

③野良猫のうた／斉藤和義

A

リリース：2003年、9thアルバム「NOWHERE LAND」の9曲目として

アーティスト：斉藤和義

作詞：斉藤和義

作曲：斉藤和義

斉藤和義は大の猫好きとして知られ、彼の曲の中には頻繁に猫が登場する。この「野良猫のうた」ではどんな猫が歌われているのだろうか。

・歌詞（一部）

世界中がまだ眠るころ野良猫たちが
寒そうな三日月の下で歌い出す
” どうだっていいじゃないかよそんなこと”
” 過ぎ去った日々にやさしくちづけを”
” ジャンプして屋根に乗って勇気を見せてみるよ”

(中略)

” 泥だらけの愛をもって海へ行け”
” 今日の体力は今日中に使いきれ”
あてのない旅の途中 君は何処？
ぶらさがる三日月の涙
ここにはもう いたくない
本能に逆行するような世界

俺は野良猫 おまえは誰だ
そんな爪じゃあいつらには勝てっこないぜ
目を開いて 牙をむいて 飛びかかれよ今がチャンスだ
泣いてばかりのおまえは誰だ
その機械がなきゃおまえはおまえじゃないのか
目を覚ませ 俺と行こうぜ 世界はまだ喜びにあふれてる

(『野良猫のうた』作詞／斉藤和義)

B 世界中が” まだ” 眠るころ……ということは午前3時ごろであろう、細い三日月の下で野良猫たちが歌っている。この歌詞を読み解く上で難しいのが、「俺」「おまえ」「君」「あいつら」と、代名詞が多いことである。まず、「あいつら」が「野良猫たち」を指していることは分かる。また、「俺

は野良猫」だそうだ。では、そんな「俺」に「誰だ」と言われた「おまえ」は誰だろうか。「おまえ」の情報を集めてみる。どうやら、「おまえ」は爪が野良猫より小さく、泣いてばかりで、機械に夢中な生き物のようだ。そう、機械に取りつかれている生き物といえば、人間だ。自分では強く生きているつもりでも、野良猫から見れば人間は「泣いてばかり」らしい。「俺」はそんな人間に「飛びかかれよ」と（省略した部分を含め）二度も言っている。この歌は、人間のぐずぐずとして弱い部分を野良猫の立場で嘲笑し、いい具合に戒めているのだ。そう考えると、歌を歌う「あいつら」のセリフと思われる、” ” で挟まれた部分も、人間に向けてのメッセージのような気がしてくる。野良猫たちは人間に向かって歌っているのかもしれない。しかし、「君」は誰なのか。ここでふと、ある解釈が浮かんだ。「おまえ」は人間ではなく、人間に飼われている猫のことではないか。確かに、飼い猫も「機械」の中で生きている。そして、「ここにはもう」～「ような世界」の部分が飼い猫のセリフで、「君」が野良猫である「俺」のことだとすれば筋が通る。飼い猫は、「飛びかかれよ」「あいつらには勝てっこないぜ」と言ってくる「俺」に対して「君は何処?」「ここにはもう いたくない」と答える。人間が生きる世界は猫の本能に逆行しているから、飼い猫にとっては生きづらいのだ。猫になんとも申し訳ない気分になってしまう。

C 「おまえ」は人間もしくは人間に飼われている猫であるという結論に至った。どちらにせよ、この歌詞は何か野良猫が話しかけている内容であるため、ここでの「猫」は動物としての猫だと捉えられる。

D 野良猫たちが三日月の下で歌っている姿を想像したとき、私の頭にはなぜか野良猫たちが二本足で立っている姿が浮かんだ。立ち方はともかく、歌詞に登場する野良猫たちは、人間世界のような柵にとらわれず自由気ままに生きているだろう。「世界はまだ喜びにあふれてる」のだ。

④猫/aiko

A

リリース：2004年、15th シングル「かばん」の2曲目として

アーティスト：aiko

作詞：AIKO

作曲：AIKO

AIKOは、aikoが作詞作曲の際に用いる名義である。「詞先」であり、メロディーよりも先に歌詞を作る。aikoの楽曲はほとんどがラブソングであるが、男女問わず、メガネ裸眼コンタクト問わず万人に響くその歌詞は、長く聴き続けられている理由の一つである。

・歌詞（一部）

雨が降れば猫は泣く 濡れた身体を誰かになめて欲しいから
あたしだって思うわ あなたにこの舌をなめて欲しいって
心なしか近寄ったら もう後戻りは出来ないんだ
地球儀の鍵はあたしが握る 少し位なら抵抗してもいいよ

あなたを好きになった事 そのつど涙を流したのも
もういいよ それなりに…
あなたを好きになった事 あたしが1人じゃないって
大事な印になるって 知ってた？

（『猫』作詞/AIKO）

B 雨が降れば猫は泣く。雨の日は湿度が高いなどして、猫は体調不良に陥るため、普段鳴かない猫もよく鳴くようになる。しかし、歌詞では「泣く」とされている。なぜだろうと思って読み進めると、猫は雨の中において、濡れていることがわかる。哀れだ。さらに読むと、「あたし」もそのような状況に置かれているとある。余談だが、aikoは歌詞に「あたし」という特徴的な一人称を頻繁に用いる。「あたし」と「わたし」のニュアンスの違いを、一度考えてみてほしい。閑話休題、「あたし」は雨でびしょ濡れの猫と同じ心情のようだ。「あなた」を愛しく思う中で、「後戻り」は出来ないことをそこはかたなく悟り始めている。四行目の歌詞は興味深い。「地球儀の鍵」を握ることを何もかも独占することと捉えると、「あなたの全てを支配したい。でも、それに抗ってほしい。」と読める。②の「猫になりたい」のときにも感じたことだが、愛は狂気とさほど変わらない。ましてや相手に届かない愛情となれば、狂気の色を出さずにはいられないのだ。今回も、「そのつど涙を流したのも」とあり、「あたし」が「あなた」のことを諦めては好きになるのを繰り返していることが読み取れる。そんな自分に「もういいよ」と感じて、「あなた」のことを諦めてしまうと心の中に雨が降り、自分の中の「猫」が泣いてしまう。この歌詞で一番引っかかるのは、「それなりに…」の部分だ。「…」にどんな意味がこめられているのか、きっと正解はない。それなりに、つらい。それなりに、愛しい。それなりに、嫌い。それなりに…。

C Bでもちらりと書いたように、「猫」と「あたし」の心の中にいる。「あなた」への愛が報われな
いたびにニャアニャアと切ない声で泣き出す「猫」は、「あたし」の胸を痛めるに違いない。「猫」
は愛の深さゆえの痛みなのだ。

D 猫の鳴き声（泣き声）は、何かを恐れているような、何かしらの痛み苦しんでいるような、か
弱い訴えに聞こえることがある。「猫」＝痛み、の比喩はこのか弱い声で鳴いているイメージによる
ものだと考えられる。

⑤こたつねこ／ザ・クロマニヨンズ

A

リリース：2007年、2ndアルバム「CAVE PARTY」の6曲目として

アーティスト：ザ・クロマニヨンズ

作詞：真島昌利

作曲：真島昌利

真島昌利は、1985年に甲本ヒロトらとTHE BLUE HEARTSを結成し、1995年に解散後、甲本ヒロトらと↑THE HIGH-LOWS↓を結成し、現在ではザ・クロマニヨンズとして活動するミュージシャンである。甲本ヒロトや真島昌利の書く歌詞はその文学性が高く評価されている。

・歌詞（一部）

こたつねこ こたつねこ
こたつねこ こたつねこ
ギターで冬の爪を切って みかん食べよう
こたつねこ こたつねこ
こたつねこ こたつねこ
新年を静かに寿ぐ みかん食べよう
こたつ船に乗ったら 七つの海ひとまたぎ
こたつティーを飲んだら 明日への希望が燃えるよ
こたつねこ こたつねこ
こたつねこ こたつねこ

（『こたつねこ』作詞／真島昌利）

B 「こたつねこ」とは不思議な単語だ。平仮名をたった五文字並べるだけで、冬の寒い日にこたつの中で丸まって眠る猫の姿を表現できている。いや、この言葉は主人公である人間が自分の姿を喩えたものかもしれない。また、「こたつ船」「こたつティー」とこれまた聞いたことのない単語が並ぶが、（一部の川では、こたつを乗せた船で川下りができる「こたつ舟」なるものが存在するらしい）心身を癒す暖かいものであることは感覚的に理解できる。冬の寒い日に、ギターを弾き、みかんを食べながら静かに新年を祝う。「こたつ船」に乗れば、ドラえもんのタイムマシンやアラジンの絨毯のようにどこへでも行ける。「こたつティー」を飲めば明日が輝いて見える。なんて素敵な冬籠りだろう。

C 「こたつねこ」は単にこたつで丸くなる猫というより、凍えるような冬の日屋で縮こまる一人の人間の姿を喩えたものだと私は思う。

D この歌詞を見たとき、一番に連想されるのが童謡「雪」の「猫はこたつで丸くなる」というフレーズだ。そんな保温目的で丸まって寝る猫のイメージが、この「こたつねこ」の歌詞には反映されている。

⑥黒猫道／東京事変

A

リリース：2007年、3rdアルバム「娛樂」の6曲目として

アーティスト：東京事変

作詞：椎名林檎

作曲：伊澤一葉

東京事変は、シンガーソングライターの椎名林檎を中心に2003年に結成され、2012年に解散するも2020年に「再生」として活動を再開した5人組のバンドである。ソロとしても活動する椎名林檎は猫好きであり、彼女が代表取締役を務める芸能事務所の名前は「黒猫堂」で、黒猫堂には椎名林檎や東京事変などが所属している。

・歌詞（一部）

退いた 退いた ほーらオレサマのお通り
僕は闊歩しつつ唱えている 「黒いのは条件反射」
吠えるものか 今日はまるで無勘定だ
除けモノにされても良いから かまうなよ人間関係
立ち止まって撫ぜられるのも
自動車警笛を鳴らされるのも
手ぐせで尻尾を掴まれるのも もう毛頭堪忍
誰も立って居ない道を行け
頭一個の狭さで行け
黒くなって人目に付かぬ様に さあ急いで 急いで

前を向いたら後退不能なのだ
僕は譲歩しつつ構えている 「黒いのは防衛本能」
吠えるものか 今日でもまるで不干渉だ
除けモノにされても良いから かまうなよ人間関係

- ・冷たくても大きな獣
- ・吐息が温かい生き物

彼等を食さぬ僕を臆病者なんて云うな
魚と葉っぱで生きられる
無駄な殺生を避けていける
四六時中喪に服し 涙を呑む信心者さ

(中略)

退いた 退いた ほーらオレサマのお通り
”不吉。”と嫌われて丁度いい
かまうなよ人間関係

(『黒猫道』作詞／椎名林檎)

B 黒猫が主人公であるこの歌は、疾走感あふれる大変楽しい曲だ。黒猫は「黒いのは条件反射」と唱えながら胸を張って歩いてゆく。黒猫といえればしばしば不吉な動物として忌み嫌われるが、そんなことはちっとも気にしていない様子だ。なぜか。「立ち止まって撫ぜられる」「自動車警笛を鳴らされる」「手ぐせで尻尾を掴まれる」ことにうんざりしているからだ。(「自動車警笛」は「クラクション」と読む。)そしてこれらは人間の所業である。黒猫は自分のことを「不吉。」と言う人間のせいで惨めな思いになるのではなく、むしろ人間がどうしても良くなっているのだ。ただ、「吠えるものか」とも言っている。嫌気がさして人間から逃げても、ひとり(一匹?)は寂しい。でも、吠えるものか。堂々と生きていく覚悟が読み取れる。「冷たくても大きな獣」「吐息が温かい生き物」は、おそらく人間のことだ。人間から離れる自分を正当化し、「立ち止まって撫ぜられる」のが恋しくなってしまう自分を慰めているのだ。また、この歌はテンポが特徴的である。最後の「退いた 退いた」から一気にアップテンポしたかと思えば、急にスローダウンし、口笛とともに終演する。最後のメロディーだけで、黒猫が寂しさも持ち合わせながらひとりで生きていく覚悟を決め、ゆっくりと自分の道を歩く姿がありありと想像できる。この曲の英題は「My way」だそうだ。

C この歌詞全体を通して読むと、人間から離れる黒猫を歌った曲だともとれるが、何かから離れる覚悟を決めた人間を黒猫に喩えたものだともとれる。比喻かどうかはともかくとして、英題が「My way」であることから分かるように、この歌では堂々と自分の道を歩く黒猫の姿が描かれている。

D まず、一定に持たれている黒猫のイメージとして、「不吉」が挙げられる。そして、そのイメージに屈しないかのような堂々とした歩き姿から生まれたであろう、我が道を行く黒猫のイメージがこの歌詞の背景にある。

⑦ホラ吹き猫野郎／米津玄師

A

リリース：2014年、2ndアルバム「YANKEE」の11曲目として

アーティスト：米津玄師

作詞：米津玄師

作曲：米津玄師

米津玄師の楽曲は、歌詞の唯一無二の世界観、メロディーに潜在するノスタルジックな雰囲気が高く評価されており、彼の人気は今や若者の間だけではない。

・歌詞（一部）

そんなこんないう間に日が落ちて スチャラカどこ行く帰り道
恋は水色 鳴く蛙 豆腐のラッパ 声が遠く
さんざ待たせておいてそりゃないわ スチャラカほら吹き猫野郎
あたし何処にも行かないの あなたは知っておいて知らん顔

たんご賞味くださいな 猫も杓子もラリパッパ
ああ もう嫌になっちゃうわ
どんな言葉をあてがっても やはりあなたにや似合いません
ああ どうしたらいいの 教えてよ
酩酊上々 雄雌違わずお尻を振って踊る
目眩くらくら曼荼羅の空見てぼったくり露天に放火して
上等 グラグラ笑いの止まらぬ明日になあれ！
つまり1、2の3の4で手を叩き こんなしょうもない日々バイバイバイ
きつといつかはピカピカ花道 そんじゃまた明日ねバイバイバイ

（『ホラ吹き猫野郎』作詞／米津玄師）

B この曲は夕方に始まる。「あたし」は「あなた」を待っていたのに、「あなた」は来なかった。「あたし」は夕方まで待ったが、日が落ちて帰ることになった。「あたし」はそんな「あなた」のことを「ほら吹き猫野郎」と責める。「ラリパッパ」とは薬物もしくは飲酒、寝不足などで頭が回らなくなる様子を意味するが、「あなた」に不満を抱く「あたし」に反して、周りは「ラリパッパ」。きつと「もう嫌になっちゃう」だろう。どんな言葉で「あなた」を非難しようとも、似合わない。どうしたらいいのかわからない、という結論に至ったところで、サビに入る。「酩酊」は「ラリパッパ」とほぼ同じ意味であるが、「ラリパッパ」という語が「あたし」を含めない「猫も杓子も」を表現しているのに対し、「酩酊」は「あたし」を含めた「雄雌違わず」誰も彼もが踊り狂う様を表している。「あな

た」に待ちぼうけをくわされた「あたし」は、未来に期待しつつ、酔いつぶれて今日に別れを告げる。ここで気になるのは、「あなた」つまり「ほら吹き猫野郎」の正体だ。もちろん、「あたし」を一日中待たせたひどい男だと捉えることもできるが、「あたし」が「ぼったくり露天」にも怒っていることを考えると、「あなた」はもっと大きい存在であるような気がする。例えば、思い通りに行かない自分の運命だとか、人間関係だとか、自らの悪い性格だとか。この歌は、多様な悩みを抱える「あたし」たちに向けた応援ソングなのかもしれない。

C 「ほら吹き猫野郎」は「あなた」を表した語で、「あなた」は人々が抱える悩みを指しているから、「ほら吹き猫野郎」はその幾多の悩みを喩えた言葉であると考えられる。

D 「ほら吹き」に「猫野郎」と続けるに至った米津玄師の思考回路は不明だが、「ほら吹き猫野郎」という単語に私たちが何ら違和感を覚えないということは、「猫」自体に「ほら吹き」のイメージがあるということである。

⑧君が猫で僕が犬／クリープハイプ

A

リリース：2017年、11th シングル「イト」のカップリング曲として

アーティスト：クリープハイプ

作詞：尾崎世界観

作曲：尾崎世界観

尾崎世界観は、クリープハイプのメンバーとして活動する傍ら、自身の小説が164回芥川賞候補となるなど、小説家としても活躍している。彼の書く歌詞には、人間が持つ複雑な感情がときに刺激的な言葉を使いながらも巧みに表現されており、ファンが多い。

・歌詞（一部）

わかり合えないのはここに居ない 誰かのせいにして

笑い合えないのはここにはない 何かのせいにして

安物の傘を差して行く 君の家まで

高い所だって登る 君の場所まで

本当の事言うとね 信じてなかった

洗剤の匂いに酔ってただけ

君が猫で僕が犬 でもずっと側にいれるかな
ちょっとでも似てる所見つけられたら良いな
小さなその手の中に どれ位見つけられるかな
ああ飼い主が呼んでる じゃあね僕は行くね
また明日

『君が猫で僕が犬』作詞／尾崎世界観

B 「君が猫で僕が犬」の直後に「でもずっと側にいれるかな」とある。ということは、普通、「猫」と「犬」つまり「君」と「僕」は側に居られないということだ。そして、「僕」には「飼い主」がいる。犬は従順な生き物であるから、飼い主が呼んだらそっちに行く。しかし、「高い所だって登る 君の場所まで」と、「君」に対しても従順さを発揮している。「犬」が「僕」であるなら、「君」と「飼い主」は誰だろうか。「飼い主」のもとから「君」の家に歩き、「飼い主」に呼ばれたら戻る。この三者の関係から考えられるのは、「僕」が「君」に浮気しているということだ。あらあら。とすると、「わかり合えない」のは、「僕」と「飼い主」だ。「洗剤の匂いに酔ってただけ」というのは、どうとも取れるが、おそらく、「僕」が「君」に陶醉したことを表しているのではないかと思う。

C 上記のように、「猫」が「僕」を酔わせる存在であるならば、「猫」はそのなまめかしい「君」を喻えたものである。

D Cから、猫には見た目が美しく、艶やかなイメージがあると考えられる。

◎猫/DISH//

A
リリース：2017年、10th シングル「僕たちがやりました」のカップリング曲として
アーティスト：DISH//
作詞：あいみょん
作曲：あいみょん

「猫ソング」と聞いて真っ先にこの曲を思い出した方も多いのではないだろうか。スピッツなどに音楽的ルーツを持つあいみょんの楽曲には、男性目線の歌詞も多く、性別を越えてストレートに届くそれらは幅広い世代に人気がある。

・歌詞（一部）

夕焼けが燃えてこの街ごと
飲み込んでしまいそうな今日に
僕は君を手放してしまった

明日が不安だ とても嫌だ
だからこの僕も一緒に
飲み込んでしまえよ夕焼け

だけでもそうはいかないよな
明日ってウザいほど来るよな
眠たい夜になんだか笑っちゃう

家まで帰ろう 1人で帰ろう
昨日のことなど 幻だと思おう
君の顔なんて忘れてやるさ
馬鹿馬鹿しいだろ、そうだろ

君がいなくなった日々も
このどうしようもない気だるさも
心と体が喧嘩して
頼りない僕は寝転んで
猫になったんだよな君は
いつかフラッと現れてくれ
何気ない毎日を君色に染めておくれよ

(中略)

君がもし捨て猫だったら
この腕の中で抱きしめるよ
ケガしてるならその傷拭うし
精一杯の温もりをあげる
会いたいんだ忘れられない
猫になってでも現れてほしい
いつか君がフラッと現れて
僕はまた、幸せで

(『猫』作詞／あいみょん)

B 「僕は君を手放してしまった」。「手放す」というのは「失う」よりも積極的で、「僕」は「君」に捨てられたのではなく自ら「君」を手放した、というニュアンスが感じられる。そして、「手放してしまった」ということは、「僕」は「君」を手放したことを後悔しているということだ。後悔しているだけではない。「僕」はこの曲を通して何度も、呆れるくらい何度も「君」を取り戻したいと訴えている。「猫になったんだよな君は」とは「君」が「僕」から解かれて自由になったという意味だ

ろうが、この歌詞からふと連想されるのが②の「猫になりたい」という歌詞だ。作詞したあいみよんは熱烈なスピッツファンであるから、この二つの歌詞には少なからず繋がりがあるに違いない。しかし「君」が猫になると、自分が亡くなった「君」に会うために猫になるのは話が違う。また、「ケガしてるならその傷拭うし」と「消えないようにキズつけてあげよ」は字面は似ているものの、全く意味は異なってくる。ただ、無理に共通点を見出すことはできる。②で書いた「猫は霊界に通じている」という迷信だ。スピッツの「猫になりたい」の歌詞はこれを元にしたのではないかという結論に至ったが、この「猫」という曲もそうだとするならば、「君」は「僕」から自由になっただけでなく、あの世へ行ってしまったのではないだろうか。理屈は通っていないかもしれないが、「君」が亡き人であるという前提のもと「猫」の歌詞を解釈することは可能で、そちらの方がリアリティがあるような気がしてならない。ちなみに、この「猫」という曲を元にしたドラマも制作されており、医者に宣告された余命の期間を過ぎた、いつ死んでもおかしくない女性がヒロインである。

C ここでの「猫」は、「僕」から自由になった「君」、もしくは人生から解き放たれた、死者としての「君」の比喩である。

D まず、「猫」が自由な「君」の比喩ならば、「猫」に自由気ままなイメージがあるだろう。このイメージは③「野良猫のうた」でも使用されていた。また、「君」が亡き人であるとするならば、②「猫になりたい」のときと同じように、「猫」にはあの世と繋がっているイメージがあるということになる。

⑩夏模様の猫／Official 髭男 dism

A

リリース：2020年、3rdEP「HELLO EP」の4曲目として

(メジャーデビュー前の自主制作ミニアルバム「パレードでおわかれ」にも収録)

アーティスト：Official 髭男 dism

作詞：藤原聡

作曲：藤原聡

Official 髭男 dismの楽曲には、母音の合致や促音を効果的に使った歌詞が多く、頭に残りやすいように工夫がなされている。時に力強く、時に切ないそれらの歌詞は、感情に訴えかける力がある。

・歌詞

月が白く翳る朝
顔を擦る小さな猫
待ち合わせの街灯は
青い光ぶら下げ佇む
この街を出て海が見える場所へ
夏の匂いを嗅ぎに行こう

抱き上げて自転車のカゴの中
君を乗せて旅に出るんだ
汗ばむ季節に置いて行かれぬように
ペダルを漕いだ
鈴の音は凜と響く朝

(『夏模様の猫』作詞／藤原聡)

B 初夏の朝、空に雲が広がる。まだ残る月の下で、猫は顔を擦る。猫が顔を洗うと雨が降ると言われているから、今は梅雨、つまり夏が始まったばかりの時期なのだろう。あっという間に過ぎてしまう夏に追いつくべく、主人公と猫は自転車に乗って海まで旅に出る。歌詞上の物語としてはそれだけのことだが、この歌詞を読むと、色々な夏の記憶が蘇る。日が昇るのが早く、気持ちのいい夏の朝。なんとなく体が重い梅雨の朝。燦々と降り注ぐ夏の陽射し。汗が身体を伝う感覚。海の匂い。入道雲の迫力。一瞬にして過ぎる季節の切なさ。2分ちょっとの短い楽曲で、聴く人にこれだけ夏を感じさせることができるのはすごい。声、ピアノ、歌詞が非常に夏らしい、爽やかな一曲である。また、その透き通るような雰囲気「猫」がマッチしているのだ。

C 主人公と「猫」は自転車で海に走るが、この「猫」は主人公が飼っているペットだとも捉えられるし、「猫」が夏そのものの比喩であるとも考えられる。

D 「夏模様の猫」がどんな模様であるかは、聴く人によって違う。ただ、その猫が凜としていて、どこか切ない雰囲気を纏っているのは確かである。

〈結果〉

各楽曲から得られた「猫」のイメージをまとめたものが以下である。

- ① か弱い
- ② 甘えんぼう
あの世と繋がっている
- ③ 自由気ままに生きている
- ④ か弱い声で鳴いている
- ⑤ 丸まって寝る
- ⑥ 不吉
我が道を行く
- ⑦ ほら吹き
- ⑧ 艶やか
- ⑨ 自由気まま
あの世と繋がっている
- ⑩ 凜としている
切ない

改めて羅列してみると、「猫ってどんなイメージ？」と聞いたときに返ってくるであろう答えは全てカバーできているように思う。

〈おわりに〉

ここまで読んでくれてありがとうございます。感謝を込めて、最後くらいは敬体で。

さて、〈結果〉をご覧になってどうですか。大体予想通りだったでしょう。しかし、猫にもいろんな顔があるものですね。時に弱く、時に強く。人間と同じです。堂々としている猫もいるし、びくびくしている猫もいる。「人間はどういうものか」という議論に決着がつけられないのと同じで、「猫のイメージ」はあくまでステレオタイプだってことです。

私は歌詞が好きです。猫アレルギーですが、猫も好きです。さらに、今回の①～⑩の楽曲は全て私の好みで選んだものです。この記事が自己満足であることは見ての通りです。その上で面白いと感じてくれたのならば、これほどの幸せはないでしょう。

文章が下手なのは許してくださいね。

歌詞の解釈はすべて私の解釈ですので、「それは違うだろ！」と思うところもあるでしょう。けれども、決して間違った解釈なんてないと思うのです。もちろん、アーティストの方が「こういうつもりで書いた」という模範解答はあるでしょう。しかし、聴く人によって言葉の捉え方が違ったり、自分の中でも響く時と響かない時があったり、成長するにつれて理解が深まったりするのが、歌詞の面白いところです。あまり歌詞に注意して音楽を聴かないという方も一度、普段聴いている曲の歌詞を検索して、自分の中で転がしてみてください。きっと、その曲が大好きになるはずです。

根気強くここまで到達してくださった皆様と、締め切りから1週間、私の原稿を気長に待ってくれた編集の達本くんに、感謝感謝です。

ありがとうございました。にゃー

東大寺学園新聞部 部歌

一番

飛ぶ鳥落とす勢いで
昔は野球をしてました
右腕 360 度回転で
選手生命絶望よ
第二の人生始めます
今日から僕は新聞部
氷室京介聞きながら
氷室の悪口書き記せ
誤字脱字は免れぬ
誤字脱字は免れぬ
落丁乱丁お取替え
落丁乱丁お取替え
良き友 良き部屋 良き部員
悲しみよ ああ 悲しみよ
去りたまふ
ちり紙となりぬべし

二番

操縦席で寝ていたら
モビルスーツで一騎打ち
この世は呪われている
昔、長老がそう言った
いい文章とは何なのか
考えすぎではいけないわ
時計は五時を指していた
また一日が過ぎていく
「徳川家康、お命ちょうだい！」
「ん、ちこう寄れ」
ランナーのホームランだって
笑っちゃうねえ
あれからぼくたちは
何かを信じてこれたかなあ
新聞よ ああ 新聞よ

解説

古い番茶党の巻末にて発見された部歌。部歌の存在している部活は少ないため、極めて貴重な資料と言えるだろう。なお、作曲・作詞をしたナチュラル山田が誰なのかは未だに分かっていない。その正体については様々な議論がなされており、新聞部の七題未解決問題の一つとして広く知られている。

編集者より

ここまでお読みいただき、ありがとうございます。今年は三年ぶりに文化祭の一般公開が行われるということで、寄稿記事も含めて全員が力が入った記事を書いてくれました。どれもなかなか読みごたえのあるものだったかと思います。部員が少ないため部誌として成り立つだろうかという心配は杞憂に終わりました。その分、編集は大変でしたが。

皆さんのお気に入りの記事はどれですか？ 私としてはやはり、中前洋輔氏の『猫』概念の考察「日本のポピュラー音楽を読む」でしょうか。ひとつひとつの歌詞に丁寧な説明が添えられていて、とても分かりやすかったです。私はあまりポピュラー音楽には詳しくないのですが、楽しんで読むことができました。まだ読んでいない方は、ぜひ。

私たち現部員が新聞部を引き継いでもうすぐ一年になります。当時の新聞部員が軒並み引退し、入れ違いで入部したので、最初は新聞の作り方すら分からず苦労しました。それでも手探りで活動が続けてきて、ついに番茶党の伝統を受け継ぎ文化祭を迎えることができたのだと思うと、非常に感慨深いです。

最後になりましたが、この番茶党を発行するにあたって協力してくださった部員の皆さん、江川過、サボンナ寄稿両氏、顧問の先生、元部員、校舎統括パートの方々に、この場を借りてお礼申し上げます。

来年の番茶党もお楽しみに。

2022年9月10日

番茶党編集担当 遠本伊祐

さらば、暇申す